

工事概要 案内図

建物位置： 富山県富山市杉谷2630番地（富山大学杉谷キャンパス）

建築面積： 220.66㎡（外来トリアージ棟）
13.50㎡（歩廊）

延床面積： 424.82㎡

階 数： 地上2階

構 造： 鉄筋コンクリート造（外来トリアージ棟）
： 鉄骨造（歩廊）

基本設計： 富山大学施設企画部施設整備課

実施設計：（株）綜企画設計

工事監理： 富山大学施設企画部施設整備課

施 工： 林建設（株）

工 期： 令和3年6月～令和4年2月

富山大学附属病院外来トリアージ棟

Outpatient Triage Building, University of Toyama



杉谷キャンパス



杉谷キャンパス 配置図



杉谷キャンパス 配置図



工事計画の概要

富山県の高度医療と地域医療を担う重要拠点として、コロナ渦における院内感染のリスクを回避し、国立大学附属病院が地域医療の最後の砦としての機能・役割を発揮するとともに、大学の教育・研究機能を引き続き確保することを目的に整備計画を行った。

実施にあたっては、1階部分をトリアージスペースとして計画し、2階部分は病院機能強化のため手術室等を増設する計画とした。

これらのことから、コロナ等感染症流行期においても院内感染による病院機能低下のリスクを下げるとともに、昨今の日帰り手術増加への対応も行っている。

期待される効果

◆感染症の疑いのある患者さんの受け入れがしやすくなる

トリアージスペースへの専用の出入口を設け、感染症の疑いの患者と一般の患者を明確に分けることで、感染症の疑いの患者を受け入れやすとした。

◆院内感染のリスク低減

感染対策の換気装置を設置することで、陰圧化し十分な換気量を確保した。

トリアージスペースで感染症患者を分けることで、院内感染のリスクを低減させる。

◆災害拠点病院としての機能確保

多目的ルームは、地震等大規模災害時に怪我人等をトリアージする場所として活用することで災害の拠点病院としての能力を向上させる。

◆病院経営の健全化

外来の近くに外来手術室を確保することにより、患者・術者の利便性・効率化につながり年間手術件数の増加が期待できる。

平面図



特色ある施設整備

【省エネルギー】

- 全館LED照明を採用。
- 各更衣室・廊下は人感センサーにて照明を制御。



更衣室

- フラッシュタンク式大便器、自動水栓（発電タイプ）等の節水型衛生器具の採用。



便所、手洗い

【安全対策】

- 多目的ルーム、診察室等は専用換気扇により陰圧とすることで感染リスク低減。

- 手術室の照明、コンセントは発電機回路なので停電時でも使用可能。



多目的ルーム



診察室



手術室

建物外観・内観



外観



外観



ホール



廊下



手術ホール・準備ホール



手術室 (B)